

<翻訳>

Te Whariki ニュージーランドの幼児教育課程（巻頭～p.21）

横井 一之*・小野 克志**・中島眞吾***

ニュージーランドの幼児教育課程 TeWhariki は 1996 年に制定され、2017 年に改定版が発行された。鈴木佐喜子女史をはじめ諸氏により研究論文が多数発行されているが、英語で書かれた原著書を元に論議されている。今回の担当者のうち横井の英語力では原著書を読むよりは、日本語訳のものを読んだ方が理解は早い。このように日本語で TeWhariki を読みたいという人は多くいると推察できる。そこで、横井は小野克志氏、中島眞吾氏に依頼しここに日本語版翻訳を示すことにした。ただし、紙面の関係もあり、全 70 ページのうち今回は初めから p.21 までを翻訳した。

なお、巻頭から p.11 までを小野、p.12～18 を中島、p.18 後半～21 を横井が翻訳を担当した。

Te Whariki ニュージーランドの幼児教育課程 2017 年度版

序文

子どもたちは、宝であり、大事に育てられ、成長し、繁栄していく。

全ての子どもたちは限りない可能性とともに生まれてきます。質の高い早期学習は、子どもたちが自らの可能性を認識し、その後の学習や人生にとって力強い基盤を構築していくことに役立っています。ニュージーランドの早期学習の水準は世界でもトップクラスであり、ほとんどすべての子どもがその早期学習において豊富な関係性、経験を通して恩恵を受けています。

1996 年に初めて出版されたテ・ファリキ：ニュージーランドの幼児教育カリキュラムは、ニュージーランドの早期学習のための独自のアプローチを形作った有名なフレームワークを提供しています。20 年を経て、この改訂版、更新版を導入できることを嬉しく思います。他に類を見ないこの二文化共存の骨組み、テ・ファリキはニュージーランドにおいて、すべての子どもたちが独自性（アイデンティティ）、言語、文化に優れた有能かつ自信に満ちた学習者として成長するというビジョンを表現しています。それは、私たちの二文化共存の基盤、多文化主義の現状、そして私たちが創造する共有の未来を強調しています。それは、

*東海学園大学

**桜花学園大学

***中部大学

子どもを理解し、彼らにとって何が最良の利益なのかを熟知している大人たちによって支えられ、子どもたち自身の方法によって学んでいくことを奨励しています。

このビジョンは、異なる地域それぞれの優先事項を反映し、各々の子どもの学習の道筋を示す支援をするためのプログラムのデザインとその実現を家族、地域、社会との連携によって行う様々な方法を示しています。テ・ファリキ（マツ）の基盤となっている概念は、この多様性を受け入れ、支持しています。

Te Kohanga Reo National Trust がコハンガレオの哲学に裏付けされた伝統的なマオリの概念を取り入れ、オリジナルのテ・ファリキの発展に寄与してきたことに感謝いたします。これらの概念は広く幼児教育分野に取り入れられ、今日の私たちの考え方に受け継がれています。

The Trust はこの改訂版に大きく貢献し、**Te Whariki a te Kohanga Reo** になる以前の本文を発展させ、そしてテオレ・マオリの子どもとその家族のための明確なカリキュラムの道を示しました。

私はまた、今この世界、そして将来のためにこの文書をまとめ上げたリーダーシップと専門的技術を提供してくれた幼児教育部門のメンバーに感謝します。

この改訂は今日のニュージーランド社会の多様性、昨今の理論、教授法など、早期学習の環境の変化を反映しています。

そして、明らかかつ権限を与えられた学習の成果／21 世紀に生きる市民として位置づけられる子ども／急速に変化するグローバルな世界の中でどのように学んでいくのか／**The New Zealand Curriculum** と **Te Marautanga o Aotearoa**（マオリ語：ニュージーランドのカリキュラム）との明示的な繋がり、それは **Kahui Ako**（ラーニングセンター）| 学びのコミュニティの任務を支援し、各々の子どもの学びの実現を可能にするための共同的な努力の成果をもたらします。

異なった文化を尊重し、公平な評価に基づいた、新たな改訂版を提供できることを嬉しく思います。このカリキュラムを公表するにあたり、その溢れる才能と尽力を注いで下さった保護者、家族、地域社会に感謝いたします。

教育は生涯学習の重要な基礎であり、幼少期の学習が将来の質の高い人生を送るための道筋となっています。

Tihei mauriora! (マオリ語：ポジティブな市民権！)

Hon Hekia Parata (サイン)

教育省大臣

P3

ワイタンギ条約

テ・ティリート・ワイタンギ | ワイタンギ条約はニュージーランドの創設文書である。マオリとクラウンの代表によって 1840 年に署名されたこの合議は、マオリとパケハがニュージーランドのアオテアロア市民としての関係を築く基盤となった。この関係の中心は、社会参加を積極的に行い、その存在を保護される、共存し尊重し合うという公約に基づいている。テティティ | 条約は、特にマオリ社会に公平かつ有意な成果を達成し、マオリ社会の継続と繁栄を保証すると言う点でも教育制度の大きな意味づけをしている。幼児教育は、ここでは極めて重要な役割を担っている | 学習を支援する文化的に応答性の高いモコプナを提供することにより | 平等に学ぶことのできる機会を提供することにより | そのような規定の重要性は、テ・ファリキを通して強調されている。He Whariki は Aotearoa (ニュージーランドの) 幼児期のカリキュラムである。ニュージーランドはますます多文化社会となっている。Te Tiriti | この条約は、共同社会の環境を歓迎し、ニュージーランドを訪れるすべての移住者を含むものとする。幼児教育に携わる者は、自らの環境で表現されているさまざまな文化を評価し、支援することによって、変化する人口動態に対応している。

私たちはあなたのために恋をすることができますか？あなたの恋人は、あなたの恋人になることができます。

nana nei mega katoa

Sir Apirana Ngata(1949)*

*この手書きの原稿は、Ruatoria の Ngata Memorial College(68 ページ参照)にコピーされています。

P4

目次

序文

2

テ・ティリート・ワイタンギ | ワイタンギ条約

3

序章	6
ニュージーランドの幼児教育	8
The Whariki	10
すべての子どもたちのためのカリキュラム	12
カリキュラムの枠組みの仕組み	16
原理 Kaupapa whakahaere	17
権限委譲 Whakamana	18
包括的な発達 Kotahitanga	19
家族と地域社会 Whanau tangata	20
関係性 Nga hononga	21
構成要素、目標、学習成果 Taumata whakahirahira	22
概要	24
ウェルビーイング Mana atua	26
所属 Mana whenua	30
貢献 Mana tangata	36
コミュニケーション Mana reo	41
探求 Mana aoturoa	46
学校への経路と kura	51
kaiako の責任	59
理論とアプローチの実証	60
アセスメント、プランニング、評価	63
Marori、Pasifika 語の用語集	66
参考文献	68
Te Whariki: ふたつの経路	69

P5

格言

有能で自信を持った学習者やコミュニケーターは、心、体と精神を癒し、自分が属するという意味で、そして彼らが社会に大切な貢献をするという知識を持って安心する。

P6

Te Whariki - 幼児教育カリキュラム

序章

(マオリ語) ランギアテアに蒔いた種は決して消えない。

Rangiatea に播種した種子は決して失われない。

マオリの伝統では、幼児は受胎前、出生前、就学前のマオリの価値ある存在であった。彼らは神の故郷、ランギアテアで旅を始めた。この世に生まれた彼らは生き残るべき貴重な種のように大切に育てられ、自らの重要性を教え込まれて育ってきた。Reedy(2013)

Te whariki:アオテアロア幼児教育カリキュラム(**Te Whariki**)はニュージーランド幼児教育(ECE)の教育環境に即し、それを実践するための指導的ガイダンスを提供している。

Te Whariki の基盤は、子どもは有能であり自信を持った学習者、コミュニケーターであり、心身の健康が保たれ、身体、精神が健全で地域社会への所属意識を持ち、その社会に貢献していることを強く意識している。

このビジョンは、ニュージーランドのアオテアロアに位置するマオリをタンガタ・イスアと認識し、マオリの言語と文化を保護、共有する義務を負った上で、マオリがマオリとしての教育的成功を収めることを保証する社会を意味する。

子どもはそれぞれ独自の旅をする。彼らは学ぶことを強く切望する世界にやってきて、彼らに高い望みを与える **whanau** や **aiga** という家族のもとにやってくる。ECE（ニュージーランド幼児教育）における教師、教育者、**kaiako** はこれらの希望を実現するために協働している。

P7

幼少期における子どもに対する期待として、子どもたちは彼らの旅のために活力を与えるカリキュラムを体験するということがある。**Te Whariki** はカリキュラムの概念を広く解釈し、ECE（ニュージーランド幼児教育）の環境において起こりうるすべての経験、活動、イベントを直接的及び間接的に包含する。それは、子どものマナ（権威）を前景とし、物事に敬意を表し、互恵的で敏感な関係を持ち、原理原則、全体を構成する要素、目標、学習成果の枠組みを示している。この枠組みは独自の特徴と価値を反映し、各地域の異なるカリキュラムを編み合わせるための基礎を示している。

今日、ニュージーランドの子どもたちは、多種多様な文化、民族からなる異文化共生の社会で育っている。**Te Whariki** は異なるすべての背景を持つ子どもたちが、独自性、言語、文化において健やかに育つことを支援する。この文脈の中で、**Te Whariki** は歴史的にも現在のニュージーランドに強い関連性を持つ太平洋諸島国に起源を持つパフィカ民族の教育的願望を具体的に承認している。

カリキュラムは、私たちの過去、現在、そして未来に向けて話さなければならない。急速に変化し、さらに密接な繋がりを持ってきている世界のグローバルな市民として、子どもたちは適応力を持ち、創造性豊かで、柔軟性も持ち合わせる必要がある。彼らは、楽観的かつ機知に富んだ視点を持ち、新しい環境、機会、課題に取り組めるよう「学ぶ方法を学ぶ」必要がある。これらの理由から、Te Whariki は生涯学習を支援する知識、技術、心構え、特質の発展を重要視している。

Te Whariki は 1996 年に教育省によって初めて公表された。この文書は異なった環境における子どもたちが求めるもの、そして、教師、教育者、学習者、子ども、家族、whanau（生まれ）がそれぞれ独自のカリキュラム ‘Whariki’ を編み合わせ、原則、必要な要素、目的を定めたことを集約している。

ニュージーランドで高く評価され、国際的にも認められている Te Whariki は、幼児教育における国内最初のカリキュラム文書であった。

この改訂版は 20 年ぶりのものである。この文書は、社会の変遷、政策の転換、カリキュラムの見直し、再評価、教育学の観点からの再考、実践の結果など多くを反映している。オリジナル文書の作成と同様、それは te ao Maori（マオリの世界）から引き出された概念を生かし開発され、形作られている。

このカリキュラムとしての kohanga reo は独自の文書としての権利を有している：Te Whariki a te Kohanga Reo. Te Whariki と Te Whariki a te Kohanga Reo の印刷版は、単一の巻で公開され、フリップブックとして構成されている。両方のカリキュラムは同じ原則、性質を持つ枠組みとして共有されている。このアップデートは、ニュージーランドの Aotearoa における子どもの次世代の早期学習カリキュラムの内容の刷新と充実をはかる目的とされている。

教育関係者への通知

すべての認可を受けた、規制されている教育施設の関係者はニュージーランド公報に掲載されている教育省の幼児教育カリキュラムの枠組みに準じて教育を実施する必要がある。

Te Whariki の枠組みは教育の手引き、実践の支援として役立つよう構成されている。

この文書で使用される場合：

Te Whariki は Te Whariki: He Whariki matauranga mo nga mokopuna o Aotearoa Early childhood curriculum の短縮版である。

ECE（幼児教育）には、教育とケアセンター（モンテッソーリやシュタイナーなどの特殊性を持つものも含む）、幼稚園、プレイセンター、家庭ベースの施設、託児施設、病院内託児所、認可プレイグループなど、認可を受けて規制されているすべての施設が含まれる。

早期学習サービスには、上記のすべての施設とコハンガレオ（教育施設）が含まれる。

ECE（幼児教育）の環境とは、幼児が教育とケアを受ける場所である。それには、上記のサービスだけでなく、無認可または非公式のプレイグループも含まれる。

kaiako は保護者主導のサービスの提供者、すべての教師、教育者、その他教育に携わる者が含まれ、ECE の環境下で子どものケアと教育の責任を負う。

保護者がカリキュラムを主導している環境では、kaiako（教師）も保護者となる。ECE サービスはさまざまな用語を使用しているが、このカリキュラムでは、教授する者と学習する者の相互扶助の観点から kaiako という用語を使用している。

P8

ニュージーランドの幼児教育

ひとつの種子から生まれた木が多くの果実を実らせる。

この whakatauki（ことわざ）は、私たちは皆異なるという共通の意識を強調している。幼児教育では、互いの関係性を良好に保ち、それぞれの違いを尊重することを世に知らせている。

ほとんどすべてのニュージーランドの子どもたちは早期の学習サービスを一定期間、継続して受けている。重要なことには、その多くが生後 1 年以内にサービスを受けている。

利用可能なサービスは極めて多様である。それらは広範囲に異なる所有形態と経営形態を有し、哲学や運営モデルも多様である。これらの異なる哲学とモデルは、変化する社会状況、教育目標、親の価値観、雇用パターンなどに対応して、時間の経過とともに現れてきた。ニュージーランドでは多様なサービスが早期学習の重要な特徴である。

ECE 早期学習サービスは、地域社会に基盤を置く幼稚園と保護者が主体となって運営するプレイセンターを含んでいる。これらは今日でも私たちの教育現場において重要な部分を占めている。長い年月をかけて、ニュージーランド国内において幼児教育分野における大規模な事業拡大の動きが続いている。その中には、幅広い年齢層の子どもが、比較的長い時間利用することができる施設型のサービスや家庭的保育、病院併設の施設なども含まれ

ている。さらに、地域社会に根ざしたサービスや認可を受けているプレイグループもみとれる。

早期学習のサービスは、地元の学校や村を含む幅広い教育ネットワークに属していることが多く、地域社会での幼児やその家族の健康や福祉を支援する組織と協働している。保護者と whanau は必要性や優先性に基づいて利用可能な早期学習サービスを選択する。アクセシビリティ、価値観、文化的適合性も、しばしば重要な考慮の項目となる。中には早期教育の期間に様々なサービスを利用する場合もある。

この文脈において、Te Whariki は、カリキュラムの開発の原理原則、価値ある学習を示す尺度、効果的な支援を受ける学習環境における目標、学習成果を提供することによって、重要かつ統一的な役割を果たす。

期待されていることとしては、それぞれの ECE（幼児教育）サービスにおいて、子ども、保護者、whanau が織り交ぜて作り上げるこの Te Whariki を価値ある学習に欠かせない独自のカリキュラムとしてコミュニティの志向と学習の優先度を考慮しながら提供していくことである。

P9

この地域のカリキュラムの特徴に寄与する要因として

- 》文化的な視点、例えば、バイリンガル、言語イマージョンサービス、nga puna reo など
- 》子どもの特有な学習ニーズ
- 》構造的な違い、学期ごと、学校ごと、全日など
- 》施設における子どもの年齢範囲
- 》環境的な機会と制約
- 》地域社会における民族のおよび文化的構成
- 》組織的および哲学的な重点、モンテッソーリやシュタイナーなど
- 》様々な資源を都市や地方での利用可能度
- 》保護者や whanau、地域社会にどのように浸透しているか

NGA KOHANGA REO（NGA 保育施設）

Kohanga reo は whanau の開発に幅広く焦点を当て、マオリ語のイマージョン教育とケアサービスの認可プロバイダーである。1970 年代後半から始まった草の根的な運動として、Kohanga reo は te reo と tikanga Maori の活性化と繁栄をもたらした。1982 年に最初の kohanga が開設され、その後すぐに新たなものが造り続けられた。今日の kohanga

はニュージーランドの農村部と都市部に開設されている。

Te Whariki a te Kohanga reo は kohhanga reo の mokopuna のカリキュラムを概説している。

Pasifika Services

Pasifika のアイデンティティ、言語、文化的価値の保持と伝達は、1984 の最初の開設に伴い、PasifikaECE サービスの出現の原動力となった。言語特有のガイドラインと実行に伴う助言は Pasifika の主要の住民それぞれに利用可能である。これらは、Pasifika の子ども、両親、そして aiga（家族）と協働する際に考慮すべきプロセス、方法論、アプローチを提示している。

P10

The whariki

Whariki は子どもに力を与え、私たちの願望を運ぶ。

原理

エンパワーメント

ホリスティックな関係

家族と地域社会

関係性

より糸 (STRANDS)

ウェルビーイング

所属

貢献

コミュニケーション

探求

Whariki または織りマットは、この文書において ECE（幼児教育）

カリキュラムのメタファ（たとえ）として使用されている。ECE カリキュラムでは、4つのカリキュラムの原則が 5つのカリキュラムに織り込まれている。同時に、これらの原則とより糸は Te Whariki の本質として子どもたちに未来像を表現している（5 頁と 6 頁）。

ECE（幼児教育）を背景とした Kaiako（教師）は、その環境を創り出すために子ども、両

親、whanau、社会は協力して、それらの原則とより糸を織り交ぜる。この理解を通して考えると、カリキュラムや whariki は「すべての人が立つマット」である。

Whariki と raranga (ぼろ) は、マオリにとって象徴的で霊的な意味を持っている。Whariki を織ることは、知識、技能、時間を要する。それは常にすべてにおいて協同的に行われている。完成すると、複雑に織られた whariki はその芸術性と kaupapa (トピック) の価値がある taonga (財産) である。Pasifika は太平洋諸島国に特有の技術と様式を使用して、whariki を織る伝統をマオリと共有している。The Whariki はまた、発展していく子どものメタファ (たとえ) として理解することができる。このような解釈から、Te whariki a te Kohanga Reo のように、whariki には人間の発達の 4 つの側面が含まれている: tinana、hinengaro、wairua、whatumanawa (体、心、魂、心)

P11

以下 (図 1) に描かれている Kowhiti whakapae whariki は、旅行者が地平線を越えて進む旅の始まりを象徴している。灰色は Te Kore と tepo、潜在的な領域と啓蒙の始まりを表している。緑色は新しい人生と成長を表している。紫色、赤色、青色およびティール色は、多くの異なる文化的意味合いを持ち、カリキュラムの根拠としての原則の重要性を強調するためにここで使われている。

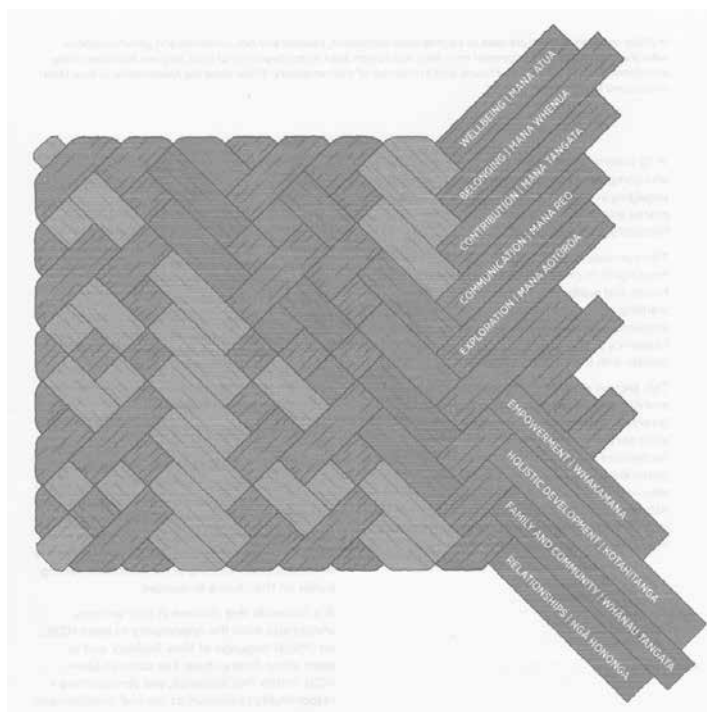


図 1 Kowhiti whakapae whariki (織りマット)

[p12]

すべての子どものためのカリキュラム

(マオリ語) 私は英雄ではない。プライベートでもそれ以外でも。

私は自分自身の強さを持って生まれてくるのではなく、私の家族や部族や祖先の強さや才能や資質を持ってくる。

伝統的なマオリの文化では、子どもたちは、どのような年齢や能力においても、本質的に有能で能力が高く、豊かで才能があるとみなされている。太古から受け継がれ、過去、現在、未来とつながっていく。このような考えは、どのようにマオリが教えるのか、また学ぶのかを理解する基礎となる。

TeWhāriki では、子どもたちは生まれながらにして自信があり、有能な学習者であると位置づけられている。彼らは人々、様々な場所や事と有意義な交流を深める。－それは生涯を通しての継続的なプロセスである。

このカリキュラムでは、すべての子どもには、健康と福祉、平等なアクセス、学びの機会、彼らの言語に対する認識、文化、アイデンティティを守り、促進させる権利があることを認めている。それらの権利はマナのコンセプトと密接に関連している。

このセクションでは、包括的肯定的な反応を示す多様性を認める実践の期待について述べている。基本的な期待としては、それぞれの尽力が、これらの権利を認め、追加の学習支援が必要となるかもしれない子どもたちを含むすべての子どもたちの積極的な参加を可能にするカリキュラムを提供することである。

すべての乳児、よちよち歩きの子ども、幼児、幅広い特性とそのカリキュラムの影響に注目している。

アイデンティティ、言語と文化

学習者のアイデンティティは、子どもたちの母語や自分たちの文化が教育環境において価値のあるものであるとき、また、カИАコが知り方や在り方に対しての文化的な方法に反応的であるときに高まる。マオリにとって、このことはカИАコが **Te Kore**、**tepō**、**te aomārama**、**atua** マオリと **tīpuna** を越えて、子どもの **whakapapa** がマオリの創始とつながることを世界的な広い視野を理解する必要があることを意味している。すべての子どもたちは彼らの ECE 環境において、カИАコが **te reo** マオリと **tikanga** マオリを日常のカリキュラムに組み込むとき、**te reo** マオリにアクセスすることができる。

ますます、子どもたちは複数の言語で学ぶようになる。英語の他、マオリ語やニュージーランドの手話・身振り (NZSL)、およそ 200 の異なる言語が使われてる。サモア、ヒンディー語、北部の中国語、フランス語そして広東語が最も一般的である。教育環境の中での

言語学習を、母語を基礎にして発達させることによって、子どもたちはもっと簡単にバイリンガルまたはマルチリンガルになる。

ECE 環境の子どもたちが、ニュージーランドの公用語である NZSL や耳の聞こえない人たちの文化を学ぶ機会を持つことが理想的である。ある子どもたちにとっては、NZSL は彼らの最初の言語であり、使わせたり発達させたりすることを支援する責任がある。

[P13]

包括的カリキュラム

TeWhāriki はすべての子どものための包括的なカリキュラムである。ジェンダーと民族性、能力の多様性、学習の必要性、家族の構造と価値、社会経済的地位と宗教を含む。

TeWhāriki では、意味のある経験をさせることによって、すべての子どもたちが他者と一緒に学ぶことができる。その際、カИАコは、強み、興味、能力、そしてそれぞれの子どもの必要性に積極的に反応する必要がある、時には追加の支援も必要である。

包括的なカリキュラムを提供することはまた、環境に適応することや必要に応じて取り組み方を教えることであり、参加や学びへの壁を取り除くことでもある。壁は物理的なもの（例えば、物理的環境）、社会的（例えば、参加を制限する活動）または概念的なもの（ある子どもたちには適していると考えられることを制限するような信条）であることがある。包括的に教えるということは、カИАコが家族、whānau やコミュニティと協力して一緒に働き、そのような壁を特定し、取り除くことになるのである。

マオリにとっては、包括的なカリキュラムがマオリの価値観と原理が強みの基盤となっている。カИАコは高い期待を実現するために、whānau とともに協力して働き、モコプナとの前向きな関係を相互に前向きな発達させていくことを目指している。

乳児、よちよち歩きの子どもと幼児

それぞれの子どもは自分のやり方で学ぶ。それは、学びの速度やタイミング、様々な文脈において新しい知識やスキルを習得する能力の発達に幅があることを意味している。これは「ā tōna wā」という言葉に反映されている。

子どもの能力は日々不規則な変化を起こす。気性、健康、環境や人の期待などに影響されて、子どもたちは数分で自立したり依存したりすることがある。幼年期のカリキュラムに関しては、探求や挑戦をするための新たな機会を与えるために柔軟なものである必要がある。子どもの学びや発達はまだ文化的な期待にも形作られている。いつでもどこでできるか、これらを実証することが必要である。

[p14]

乳児の関心と諸能力の成長

生まれながらに、乳児は自分たちのしたいこと、またしてほしいことを伝えることができ、時間の経過とともに、物事を予測することができるようになる。彼らは、彼らの必要を満たし、学びの機会を提供するために、手がかりとジェスチャーを敏感に観察するためにカイアコに頼る。

»乳児はコミュニケーションスキルを急速に獲得していく。このスキルは、豊富な言語環境、また思いやりのあるやりとりの中で育つ。乳児は、身体的、感情的、文化的、精神的なニーズが予測可能な方法で満たされるという自信を高めていく。彼らは身近な大人が近くにいることを知っているという安全を必要としている。

»乳児は、人、場所、物との敬意を払って相互にやりとりすることによって学び、カイアコが感覚刺激のレベルに細心の注意を払うという安全な環境が必要である。

»乳児は、健康と幸福の急速な変動を受ける可能性がある。このため、一貫性のある注意深いケアが必要だ。乳児のケアと教育には、専門知識と実践が必要となる。乳児のためのカリキュラムは、学びのための個々のケアの重要性を含んでいる。カイアコは、乳児の ECE 環境への移行を支援するために親と家族との緊密なパートナーシップで働き、子どもの変化する興味、ニーズ、能力について定期的に連絡することが大切である。

よちよち歩きの子ども

よちよち歩きの子どもは、自主学習者として自分のアイデンティティを確立させていく。初めて ECE 環境を始めたり、この環境間またはその間に移行したりする。彼らは、さまざまな状況で遭遇する事柄に対してどのように克服して前に進んでいくのかを発見している。自らの世界を探究し、知り、自立を増進し、より大きなコントロールを得るという彼らの望みは、それらを知り理解している親しみやすく理解のある大人によって支えられることになる。乳児は、身体的、社会的、認知的および言語的能力を急速に育んでいる。人、場所、物と豊かな経験をする機会を多く必要としている。

よちよち歩きの子どもの関心と諸能力の成長

よちよち歩きの子どもは、活発で、好奇心が強く、彼らの世界を理解しようとしている。彼らは、ワーキング・セオリーを洗練させたり、発達させながら、限界や原因や結果を試すのを楽しむ。カイアコは、彼らの興味に注意を払い、新しい学習と繰り返し学習の両方の機会を提供することによって、サポートする。

»よちよち歩きの子どもは口頭でも非口頭でもコミュニケーションを取り、受け入れ能力と生産能力の両方のスキルを伸ばしていく。彼らの語学学習は、会話、物語、そして歌を通して行われる。よちよち歩きの子どもは時にはとても予測できない気持ちの中で自己規制を学んでいる。静けさを保ち、選択肢を提供することで、自己規制のサポートをする。

»よちよち歩きの子どもは、観察、探検、社会的交流を通じて参加し、学ぶ。彼らは、文

化的な活動や日常の活動においてますますリーダーシップを発揮していく。彼らのためのカリキュラムは、急速に成長する能力に対応する。友だちとの約束同様、個人の探検の機会を提供するだけでなく、学びを広げ、創造性を育む経験をもたらす。カИАコは、新しい環境に移行するときに彼らの強みと関心を育てるように注意する。学習の期待が低すぎたり高すぎたりすると、彼らは飽きたり、挫折したりすることがある。明確かつ一貫した境界線を提示しながら、カИАコは児童が能力を伸ばす権利を認め、尊重する。

幼児

幼児は、言葉や質問、そして他の見方を理解する能力が高まっている。彼らは、異なる文化が異なる期待を持っていること、ある文脈では適切なことが別の文脈では適切でないことを理解し、文化的な期待をより認識している。特に、感情的なサポート、カИАコの尊敬と受け入れによって守られている場合、予期せぬことや変化に対処する彼らの能力も増している。彼らは自分の生活を計画したりチェックしたりすることを学んでいる。彼らは学習者としての自分自身の認識力を高め、仲間とのやり取りをますます好むようになっていく。

[p15]

幼児のためのカリキュラムは、主に遊びをベースとした豊富な経験を提供する。これらに取り入れることによって、子どもたちは、探検、コミュニケーション、表現を通じて、身近で広い世界を理解する。幼児は、識字、数学、その他の分野の知識に興味を持っている。彼らは想像力豊かな発想をすることができる。

幼児の関心と諸能力の成長

»幼児は、周囲の世界のさまざまなパターンや規則性を発見し、よく分からないことや予期せぬ事柄に疑問を持ち、探求し、試す。彼らは「ナンセンス」とユーモアを認識し、反応する。

»彼らは、より広い世界の文脈で家族や家庭、マラエ、または ECE の環境をますます見ることが出来るようになっていく。彼らは、知識の発達、象徴化と表現、そして言語による信頼の高まり、文字、数字と環境印刷（お店のロゴマークやキャラクターデザインなど）の認識、言葉や韻、歌、音楽などの新しい能力を持っている。多くの子どもたちは、堪能なバイリンガルまたはマルチリンガルになっていく。彼らは創造的であり、芸術、音楽、ダンスを通して自分自身を表現することを楽しむ。

»彼らの発達中の識字能力と数学的能力は、推論、言葉の探索、よく分からないこと、物理的で社会的な世界のような新しい目的を含む。

»彼らのワーキングメモリが大きいことは、物語を語り、歌とカラキアを歌い、より複雑な作業理論と問題解決のストラテジーを発達し、注意を持続させ、より根気強く好奇心旺

盛であり続ける能力に貢献する。

»彼らは友情を育み、維持し、whanaugatanga の関係に相互に参加できるようにする社会的スキルを発達させていく。

»彼らは他の人の視点に立って物事を見ることができるようになっている。

»彼らは歩行運動やその他の運動技能を確立し、統合し、改良しており、より大きな身体的挑戦を求めている。

»彼らは、計画、チェック、質問などのストラテジーを使用し、経験や課題を反映させることによって、アイデンティティをさらに発達させていく。

»彼らは他の人とアイデアについて話をしたりしながら、遊びの機会を利用し、自分の想像力を使って自分や他の人たちの文化やアイデンティティを探究する。

カイアコは、幼児が新しいチャレンジを経験し、自己選択の学習目標を追求し、より長期のプロジェクトに参加する機会を提供することによって、幼児の学習と発達を手助けする。そのような機会は、彼らが能力の幅を広げ、学習のレパートリーを広げ、学校へ円滑に移行していくことを支援するよう促している。

TeWhāriki の本当の強みは、ニュージーランドのあらゆる文化、また、世界において強く持続可能な基盤を確立する能力である。TeWhāriki は、幼児たちの学びの基盤が自分たちの文化的なルーツに対する尊敬と理解に基づいており、そのような教育においてすべての子どもたちが成功するという理論に基づいている。 Reedy&Reedy (2013)

[p16]

(湖を遠くに眺める、3 名の子どもの後ろ姿の写真)

カリキュラムの枠組みはどのように編成されているか

カリキュラムは原理、領域、目標、学習の成果の観点から記述されている。

原理

原理では、ニュージーランドにおけるすべての ECE 環境の 4 つの基本的な期待を説明している。これらの原理は、カリキュラムの意思決定の基礎であり、教育と実践の各側面についてのガイドだ。原理については、17-21 ページを参照すること。

領域

領域では、自信に満ち溢れた、能力のある学習者として必要な能力を発達させるために子どもを支援することに重点を置く 5 つの学習と発達の分野について説明している。領域については、22-50 ページを参照のこと。

目標

目標はカイアコのためのものである。原理に対して首尾一貫した、カリキュラム全体にわたる子どもの学習と発達を支援する環境と教育の促進の特徴を説明している。

学びの成果

学びの成果は、価値ある学習の広範にわたる声明である。カリキュラムの計画と評価に役立ち、子どもの進歩の評価を支援するように設計されている。目標と学びの成果の概要については、24・25 ページを参照のこと。領域による目標と学習成果については、27,32,37,42、および 47 ページを参照のこと。

[p17]

(4 枚の写真)

(左上 男児と氷盛り) (右上 幼児 2 名)

(左下 女性カイアコ 2 名) (右下 マオリ族の像と幼児 3 名)

原理

(マオリ語) 強くいなさい、モコよ。 あなたの両親の反映。 あなたの先祖の青写真。

このことわざは、子どもたちが彼らの前に行ったすべての人の具体化であるという知識の中で、誇りを持って強くいることを奨励している。

カリキュラムは 4 つの原理、すなわちエンパワーメント | (マオリ語)、ホリスティックな発達 | (マオリ語)、家族、コミュニティ | (マオリ語)、そして関係 | (マオリ語)。これらの原理は、カリキュラムの意思決定の基礎であり、教育と実践の各側面についてのガイドである。

[TeWhāriki では]子どもたちは、選択し、計画し、挑戦する積極的な学習者として評価される。これは相互関係の環境を刺激し、子どもたち（たとえ話すことができなくても）を聞いて、彼らの気持ち、好奇心、関心、知識が幼い頃の子どものたちの環境にどのように関わっているのかを観察しながら、自分の学習に貢献するよう促す。 スミス (2007 年)

[p18]

原理 1 エンパワーメント | (マオリ語)

幼児期のカリキュラムは、子どもが学び、成長する能力を高める。

(マオリ語) (4つの写真)

[p18 後半]

この原則は、すべての子どもが自分のマナを認識して向上させ、他人のマナを向上させることを支援する力を与えるカリキュラムを経験させることを意味する。マオリの視点から見ると、すべての子どもは自分のティプナから受け継いだマナで生まれている。マナは存在の力であり、支持され強化されなければならない。学び、自分の能力を伸ばすためには、子どもは尊敬され評価されなければならない。これは、幸福を促進し、危害から保護され、参加と学習のため、そして休息と遊びのための平等な機会を経験する権利を認めることを意味する。カイアコは、すべての子どもがさまざまな豊かな経験に参加し、それに貢献することを奨励し支援するという重要な役割を担っている。これらは子どもの能力と自信を拡大し、そして時間をかけて、彼らが彼ら自身の人生を導くことを可能にする。

エンパワメント環境において、子どもは彼ら自身の考えを創り出しそして行動し、彼らが興味を持っている分野で知識と技能を開発し、そしてますます彼らと関連する事項について決定と判断を下す力を持っている。遊びや遊び心が重視され、カイアコ主導の経験は魅力的で楽しいものである。エンパワメントに関する見通しは文化的に位置づけられているので、カイアコは地元のカリキュラムをデザインするときに子どもとその両親の助けを求める必要がある。

[p19]

原理2 全体的な発達

幼児期のカリキュラムは、子どもが学んで成長する全体的な方法を反映している。

(マオリ語) (4つの写真)

人間の発達、認知的 (ヒネンガロ)、肉体的 (ティナナ)、感情的 (ワツアナワ)、そして社会的および文化的な側面から考えることができるが、これらの側面は、密接に織り交ぜられ相互依存するものとして見られる必要がある。マオリにとって、精神的な次元は、時間と空間を超えて他の次元を結びつけるので、全体論的発展の基本である。子どもは全体的に成長するので、彼らは彼らがすべての次元にわたって彼らの能力を伸ばすことを可能にする広くて豊かなカリキュラムを必要とする。特定の分野の学習に焦点を当てるとき、**kaiako** はこの焦点が学習の他の側面とどのように関連しており、それがどのように子どもの強みの上に成り立っているかを考慮する必要がある。

身体的環境、感情的な状態、他者との関係、そして当面のニーズといった文脈のあらゆる側面が、子どもが特定の経験から学ぶことに影響を与える。全体論的アプローチでは、

子どもは学習したい人、タスクは有意義な全体、全体はその部分の合計よりも大きいと見なされる。カイアコが子どもが成長し学ぶ全体的な方法についての知識と理解を持つことは重要である。彼らはまた、彼らの ECE（幼児教育）の設定で表されている文化が、子どもの発達や家族と白人の役割について持っているかもしれないという異なる見解を知っているべきである。

[p.20]

原理 3 家族とコミュニティ

家族とコミュニティのより広い世界は幼児期のカリキュラムの不可欠な部分だ。

（マオリ語）（4つの写真）

それぞれの子どもの幸福は彼らの **kaiako**、両親と **whānau** の幸福と相互依存している。彼らの文化、知識およびコミュニティが確認されたとき、そして彼らの生活の中の人々が彼らが設定を越えてつながりを作るのを助けるとき、子どもは最もよく学び、成長する。**kaiako** が **whānau** と有意義な関係を築くこと、そして彼らがハプ、イウィ、そしてより広いコミュニティのものと共に、子どもへの彼らの願望を尊重することが重要である。すべての文化団体は、特定の知識、スキル、態度、素質に価値を置く信念、伝統、そして子育ての慣習を持っている。文化的に適切なコミュニケーション方法が使用されるとき、そして親、**Whānau** および地域社会がカリキュラムに参加して貢献することが奨励されるとき、子どもの学習と発達は強化される。

すべての ECE（幼児教育）カリキュラムは、子どもが環境に持ち込む知識と経験を大切にし、その上に構築する。これには、例えば、子どもの日常の経験や、家族、ワーナウ、そして地域や文化のコミュニティによって祝われる特別なイベントへのリンクを結ぶことが含まれる。

[p.21]

原理 4 関係性

子どもは人々、場所、物との敏感で相互的な関係を通して学びます。

（マオリ語）（4つの写真）

両親と **whānau** は、彼らの ECE（幼児教育）サービスが尊重される関係、励まし、暖かさ、そして受け入れが標準である環境を提供するであろうと信じている。それは人々、場所、物との敏感で相互的な関係を通して子どもが彼らの考えを試し、彼らの作業理論を洗

練する機会を持つことである。このため、共同での願望、ベンチャー、そして業績が評価される。過去、現在、そして未来へのつながりは、マオリの人間関係の観点にとって不可欠である。これには、移住したティプナとの関係、およびファカパパを介して、たとえば、マウナ、アワ、モアナ、フェヌア、マラエへのつながりが含まれる。

カИАコは重要な文化的道具に取り組むための幅広い資源と機会を含む促進的な環境を提供することに慎重な注意を払う。文化的道具は物質的で心理的なものである。それらは、地図、単語、あるいは身振りなど、さまざまなものがある。カИАコは、文化的ツールにアクセスし、理解し、そして使用する能力が増すことで、子どもの世界への参加と貢献が拡大することを認識している。

<引用文献>

- 1) The Ministry of Education, New Zealand 2017 “Te Whariki”
<https://www.education.govt.nz/early-childhood/teaching-and-learning/te-whariki/>

<参考文献>

- 1) マーガレット・カー（2013）「子どもの学びをアセスメントする」『翻訳 大宮勇雄、鈴木佐喜子』ひとなる書房。
- 2) 鈴木佐喜子（2018）「ニュージーランドにおける保育カリキュラム『テ・ファリキ』の改定と改定作業プロセス」『保育学研究』第 56 巻第 2 号、pp136-146。